

東淀川区区政会議 教育・子育て部会 学習会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 4 月 21 日(金)午後 7～9 時。東淀川区役所 3 階 301・302 会議室

出席者 教育・子育て部会委員 11 名、他部会委員 2 名

議題 1 平成 29 年度教育・子育てに関する事業進捗状況（報告）

（平成 29 年度運営方針（経営課題 3）について）

○今までの区政会議の意見が様々な部分に反映されていると思う。

（3-3-1 居場所づくり・学習支援事業の事業内容について）

○学習支援だけでいいのか？この部会は自尊感情を高めるための居場所づくりに取り組んできた。学力向上は当然だが、自尊感情向上には精神的な支援についても必要では。

- ・学識経験者の研究からも、他人と触れ合う機会がたくさんある子は、自己承認・自己肯定感につながるかとされている。共稼ぎなり一人親のご家庭など、自分がほっとできるような居場所がないお子さんに地域ぐるみで関わっていただき、その子が大人と接する中で自己承認・自己肯定感を向上していくきっかけづくりにしていきたいという思いで始めている事業である。
- ・学習支援の進め方もいろんな視点が必要。部会でもご意見いただきたい。

（3-3-1 居場所づくり・学習支援事業のアドバイザー事業者について）

○アドバイザー派遣の事業者について、東淀川区としてどういう視点で業者選定したのか。また現在選ばれている業者名は。

○価格だけでなく、内容、実績も考慮して、東淀川区の特徴をとらえた業者を選定しているのか。

○こどもの居場所の営業時間帯はどうなっているか。例えば夏休みや長期休暇、日曜日など。

○学校の敷地を使って実施してもいいのか。

- ・29 年度の事業者は、共同体で、「関西こども文化協会」、「一般社団法人コアプラス」で構成。事業内容については仕様書や募集要項に定めており、居場所の開設と運営にかかる助言全般。人材や資金の面やどのようにこどもたちの気持ちをつかみ居場所にいやすくするか、大人との人間関係をつくるかといったようなコミュニケーションの留意点なども助言する。今年度は、助言内容等を手引き書にまとめたり、ホームページ上であげたりして、次年度に活用できるようにするなど取組みを深めていく。
- ・選定については、入札ではなく、公募型プロポーザルで行った。区が提示した条件に沿った企画であることに加え、東淀川区の地域の状況、こどもへの理解があるかについてや、人材確保、資金計画の提案などを、外部選定委員が採点し、最高得点の事業者と契約した。
- ・居場所の運営については、地域や団体が自主的に運営していただくのを区が支援するという内容なので、一律なものではない。それぞれの地域性や、こどもたちの状況、様々なニーズや資源を考慮し、それぞれに合った形で進めていただきたいと思っている。
- ・今回の事業は、民間施設活用の学習支援。今されている学校での取組みは相談のうえ進めたい。

（3-5-2 「校庭等の芝生化及び学校を活用した地域連携事業」について）

○芝生の維持管理・整備や、はぐくみネット事業、生涯学習ルーム事業、学校体育施設開放事業にかかる費用の金額を提示してほしい。

- ・芝生化事業は約 1,000 万円。はぐくみネット事業・生涯学習ルーム事業はそれぞれ約 200～300 万円。学校体育施設開放事業は約 400 万円。

議題2 今後取り上げるテーマについて

○テーマを絞り全員で議論するのではなく、テーマごとに分けて議論した方がよいのではないかと。

→ 部会方向性提言の柱に沿って『子どもとおとなが互いに元気になれるまちづくりについて』と『すべての子どもが「生きる力」を身につける子育て、「共育」の2つのテーマに分かれて自由討議。

「子どもとおとなが互いに元気になれるまちづくりについて」チーム（居場所づくりについて）

○子どもと大人とのコミュニケーションを育てることが重要。

○子どもが一番集まりやすいのは子ども食堂。子ども食堂が一番とつきやすい。

○学力向上の前にまずお腹を膨らませてから。お腹が減っていると勉強ができないし、体力もつかない。子ども食堂は地域で中核になる人がいないと難しい。他区の事例も紹介してほしい。

○まずはスペースを作って、ご飯は難しくても、子どもたちがここにいけば安心できるし、楽しい、お母さん一緒に行こうとなるような暖かい居場所づくりが大事。

・菅原の子ども食堂を実施している方に運営ノウハウや課題を教えてもらうのもいい。現在、子ども食堂は区内に7箇所あって、それぞれに特徴があるので、1つに絞って講師をお願いするのではなく、いろいろな運営主体に来てもらったほうがいい。

「すべての子どもが「生きる力」を身につける子育て、「共育」のまちづくり」チーム （学力・体力向上、保護者の子育て力向上について）

○これまでは問題のある子について議論してきたが、普通の子に対しても支援の目を向けるべき。

○勉強がおもしろくなるきっかけづくりができれば成績の向上につながる。テスト前などに「テストでいい点取ろう学習会」をテスト前に行ってはどうか。PTAでも話し合っている。

○トップアスリート授業を受けた後の子どもたちはきらきら度が違う。そんなすごい講師を区民ホールに呼んで学習会をしたら、頑張るきっかけになるのではないかと。英語でも運動でもいい。

○中学生ウルトラクイズ大会や百人一首大会などは、一生懸命勉強して来ている。好きならばやる。学校の勉強でも1学期に学んだことから出題されるクイズ大会など実施すると面白い。

○夢のない子が増えた。勉強とは別に、身に付けたほうがいい能力がもっとある。

・家庭的にしんどい子などの施策は中学校勉強会。中の下くらいの子が伸びる場づくりが居場所事業の狙い。ただ、負の連鎖が多い状況が昨年生活実態調査でも出ておりしんどい子の議論も必要。一番しんどい子だけでも400人くらいいる。対応でききれていない。

・絵本読み聞かせなども重要と考えるが、読むのがしんどい家庭も。イギリスの調査では、裕福度と子どもへの声かけ・褒める回数が関連しているという結果。声かけや褒めた回数を考えていくことができないかと思っている。

東淀川区区政会議 教育・子育て部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 6 月 23 日(金)午後 7 時から午後 9 時。東淀川区役所 3 階 304 会議室
出席者 教育・子育て部会委員 11 名、他部会委員 3 名、府議会議員 1 名

議題 1 平成 28 年度東淀川区運営方針 自己評価について

【3-1-1】読み聞かせ事業について

○読み聞かせは大切。一般・シニア向け読み聞かせ講座、ざぶとん読みについて教えてほしい。

- ・シニア向け講座は近くの保育所の児童に来てもらい、実践の形で既に実施済。約 30 名出席。
- ・一般向け講座は 7 月に実施予定。いろんな層の方に対し実施、自分のこども等に幅広く取り組んでもらう。多く参加してもらい、定着をしている。
- ・ざぶとん読みは今年度開始。区内の一部保育園に協力いただき、お迎え時にこどもと保護者が座って一冊読んで帰ってもらう。大学と連携し効果検証している。今後、区内の保育所に広め、家庭での読み聞かせ習慣を広げていきたい。

【3-1-5】要保護児童対策地域協議会の充実について

○関係機関のアンケート評価を指標にしているが、解決できた割合などの評価ができないか。

- ・ケース会議を年間 100 回以上実施している。支援結果を類型化した数値は取っていないが、そういう視点も参考にさせていただきたい。

【3-2-1】保育施設未入所児童解消への対応について

○未入所児童が増える中、保育所の増設で解消につながるのか。細かい検証はされているか。

○保育施設へ開所時間を延ばすなどの依頼取り組みをした結果の実績は。対応してもらえなかったのか、対応されても増えているのかで対策は変わる。もう少し細かい検証が必要では。

○年齢別の定員枠・希望者数等の経年変化の表があれば理解しやすい。資料として検討を。

- ・保育施設の需要が逼迫しているのは圧倒的に区の中心部から東部。淡路出張所に小規模保育所 1 か所、東部地域に 80 人規模の大規模 1 か所・小規模 2 か所の確保をめざしている。
- ・保育施設への開所時間延長依頼などの取り組みはしている。分析して施策展開していきたい。

【3-2-2】多様な保育ニーズについて

○ほとんどの項目で目標達成しているなか、毎年一時保育の利用者数が上がらない。対象の方だけでなく、年齢層の高い方なども含め地域全体に広報しクチコミで広げてはどうか。

- ・地域ぐるみでの子育て機運を醸成していく。乳幼児健診等での周知など、幅広く周知していく。

議題 3 市政改革プラン 2.0 (区政編) について

議題2 将来ビジョンたたき台について（ワークショップ）

「子どもとおとなが互いに元気になれるまちづくりについて」班

- 東井高野で子ども食堂始めたいと学校協議会・連合町会を通じて話を進めた。まずは居場所として連合の会館を借り、集めた本を読む地域図書館を月2回程度開く。大人も子どもも元気になる場をめざす。シルバーパワーを借り、老人クラブと連携して、折り紙やあやとりを教えるなどの取り組みもしていく。教えるほうも元気になるようにしたい。
- 豊新の鶏フェス・肉フェス。前回から障がい者の方もおられる施設のフェスティバルと一緒にしたら3倍くらいたくさん的小朋友たちが集まるように。野球部のお母さんたちが焼き鳥屋を出すなど。たくさんの人が集まって顔見知りになれば、そこから信頼関係が広がる。
- スポーツを教えている。できるようになると自信になりそこから輪が広がる。種目は子どもたちに意見を聞き大人がプロデュース。
- 遊び場の確保は、学校開放するなど、学校や役所が緩衝材になってほしい。
- ただご飯を食べたり勉強するだけでなく、楽しくコミュニケーションできるイベント性があるといい。大人（保護者）と子どもと一緒に楽しめるといい。ただ地域であれもこれもは難しい。
- 3年前ゼロだった居場所が今は7つ。5年後の将来ビジョンは全小学校下にできるよう支援を。
- まず大人が元気になり、それを子どもたちにみせていかないといけない。区独自でスポーツ大会や体験会などつくってほしい。

・各地域の状況：豊里南は月1回100名程度、瓶井学園に学習支援協力も。菅原は月1回50食限定、毎回売切れ。

「すべての子どもが「生きる力」を身につける子育て、「共育」のまちづくり」班

- 「問題ある子だけでなく普通の子にも目を向ける」「好きなことは一生懸命する」（4月学習会）
- 自尊心向上にはほめてもらうこと。中学生クイズ大会もそう。トップアスリートなどの話を聞いたり交流し、頑張ればこういう人になれるかもというのが夢を持つきっかけになるのでは。
- 学校OBの有名人に来てもらうなど、東淀川から成功している人に話してもらうといい。
- その子の状況を全部把握したうえで個別に対応できるのが理想。その子の楽しいこと・頑張れることを見出してあげられるといい。大人も夢を持っておかないと子供に伝えられない。
- 家庭が根本で一番大事。家庭内の人数が減り孤立が進む。家庭教育の見直しも必要。親にでなく子どもに家庭が大事ということを教育することも。その子が親になるまで何十年もかかるが。
- 学校だけでは無理で、「向こう3軒両隣」が重要だが、現状地域が機能していない。地域の意識を変え、個別に声をかけ続ける努力が必要。
- 理想は、子どもたちそれぞれが自尊感情を持てるような環境づくりが必要。今の子は小さい単位の関係だけだが、地域で幅広い人間関係の中で自尊感情を育むことが大事。

・今まで地活協支援を中心としていたが、市政改革2.0（区政編）で、今後はもっと小さな単位、身近な住民同士の助け合いの支援を模索することをめざしている。

・広報紙・HPは見るとしか見ない。マスメディア手法は限界。口コミやSNS拡散が一番有効。

・昔はいろんな年代で縦社会にグループをつくり人間関係を学んだ。今は年代も関係も狭い範囲。（議員より）虐待や学力低下、貧困など様々な課題はこの「生きる力・自尊心」に行き着く。この対策が重要。「自分」「他者」「命」を大切にする子が減っている。親の環境・言葉で子どもは変わる。こうして話し合うことで、子どもたちが親になったときの日本が変わる。子どもの居場所は子どもが大事にされる場所であり、そういう経験を積んでもらえたい。

東淀川区区政会議 教育・子育て部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 7 月 27 日(木)午後 7 時から午後 8 時。東淀川区役所 3 階 304 会議室
出席者 教育・子育て部会委員 12 名

議題 1 (仮称) 東淀川区将来ビジョン 2.0～2022 年に向けて～(素案)について

(文章表現について)

- 今までの委員の皆さんから出された考え方や発言をうまくまとめて一つの形にさせていただいた。
- 「『生きる力』を身につけるのに大切な自尊感情」という部分の表現を検討いただきたい。
- 今まで話し合ってきた我々は内容をわかっているが、「生きる力」というのはあまりにも抽象すぎないか。どういう内容をこどもに伝えなければならないかをもう少し具体的に提示しては。

- ・適切な文章表現を検討していきたい。
- ・「生きる力」は大阪市教育振興基本計画などで使われており、教育委員会の文章の中では定着してきているため記載したが、区民の方にわかりやすい、具体的な表現を工夫したい。

議題 2 平成 30 年度取り組みの方向性について

※意見なし。

※今年度の部会・学習会での意見をまとめた「平成 30 年度取り組みに向けた区政会議意見まとめ(教育・子育て部会)」の項目より、平成 30 年度重点的に取り組むべきテーマについて全委員が 1～3 位まで選び、アンケート集約する。